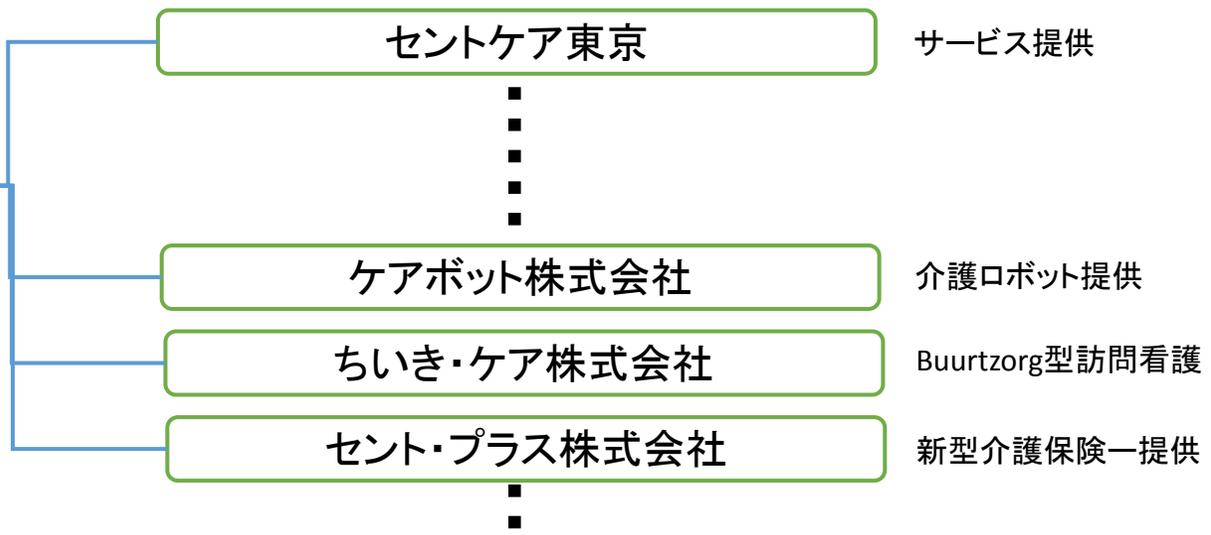


1. セントケア・グループとは



サービス	拠点数
介護・入浴・居宅介護支援	255
訪問看護	54
デイサービス	56
グループホーム	37
小規模多機能型居宅介護	28
看護小規模多機能型居宅介護	5
ショートステイ	21
有料老人ホーム	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4
住宅リフォーム	16
福祉用具レンタル	41
その他事業	10

グループ概要

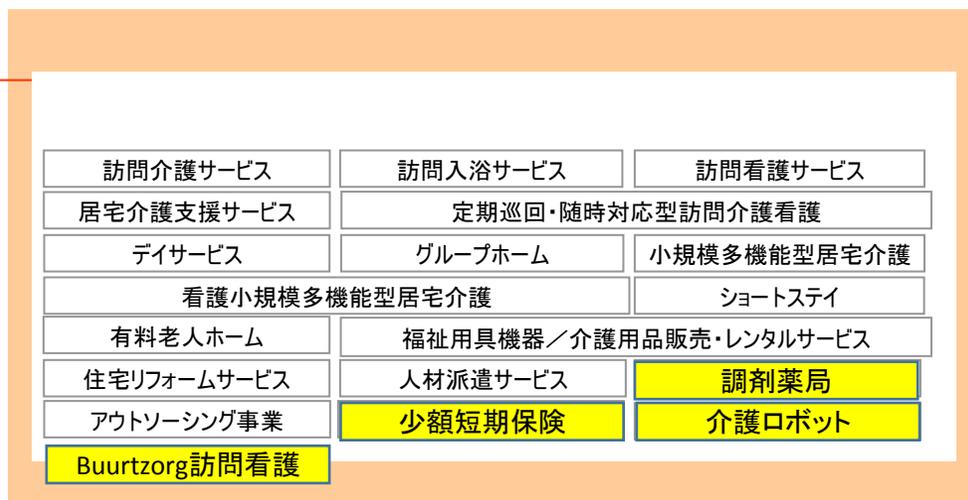
スタッフ数 正社員 2,899名
 契約社員 6,757名
 計 9,656名

拠点数 488カ所

グループ会社 28社

(平成28年6月末日時点)

沿革



2. セントケアの新規事業

新たな価値観
の創造

ケアボット
株式会社

- * リスク回避のためのロボット
- * クラリオンとのJV

セント・プラス
少額短期保険

- * 社会保険を補完する
自助・互助型の民間保険

訪問看護専用
アセスメント

- * 病棟看護との違いを、開発

人工知能に関する
学術研究

- * スタンフォード大学との
共同研究
- * AI研究センターおよび医療
研究センターとの共同研究

ちいき・ケア
株式会社

- * Buurtzorg型訪問看護
⇒ 自立支援型訪問看護

認知症に関する
研究

- * 人工知能によるBPSD発症予測
- * アインシュタイン医科大学
の研究者との共同研究

人工知能に関する
事業化

- * 介護を、科学化
- * 研究成果を、実際の
現場で役立つものに

介護における
産業革命

3. 人工知能で実現できること

現 状

将 来

パラダイム・シフト

お世話する介護
—要望対応型ケアプラン—

- 1) 介護保険財政の悪化
- 2) 寝たきり高齢者の増加

→
成功ノウハウの
普遍化による
加速化

自立を支援する介護
—課題解決型ケアプラン—

- 1) 介護保険財政の健全化
- 2) 高齢者の社会参加

人工知能は、同時に84,000人のケアマネジャーにOJTを行う

自立を支援するノウハウの普遍化

職人芸
—個々の専門職の経験—

- 1) 経験は、一代限り
- 2) 暗黙知は、共有不可

直感やひらめきは、その人限り

→
多数の成功
体験を共有化

知恵化
—経験から知恵へ—

- 1) 経験を、「知恵」と言う形で共有
- 2) 暗黙知までも、共有

直感やひらめきを、人工知能が共有化し、現場に普遍化

ディープ
ラーニング

4. 人工知能により、介護分野が得るメリット

要介護者

- 1) 要介護状態になっても、再度、自立を目指し、社会参加を目指すことができる
- 2) 担当する専門職による当たり外れがなくなり、安心して介護を受けることができる

働く側

- 1) 人工知能を通じて、優れた専門職の知見を共有化できる
 - 2) 初期教育から、ケースを通じたOJTに至るまで、人工知能を活用することにより優れた教育を受けることができる
- ☆「いつも、おむつ交換ありがとう」と言われるより
「孫の結婚式に出ることができた」と言われる方が、はるかに嬉しい

自治体・住民

- 1) 介護費用の増大を、抑えることが可能となる
 - 2) 負担すべき介護保険料が、上昇しない、もしくは引き下げることができる
- ☆高齢者中の要介護者割合 **全国平均18.2% ⇒ 和光市 9.4%**

その他

- 1) 介護ノウハウ(暗黙知を含む)を人工知能化することにより、輸出可能な商品アイテムとなる
- 2) 介護を、新たな学問分野とすることができる(人類への貢献)

5. 日本が成功する訳

介護保険制度

標準化されたデータ

【寝たきり状態の定義】

- 1) 介護保険制度により、要介護状態が標準化
⇒ 評価項目(歩けるかなど)から、標準化
- 2) 全市町村で、上記を真面目にアセスメントし、記録

【実施サービスの詳細記録】

- 費用償還のために、サービスを詳細に区分
⇒ 事業所の体制や、教育の有無などまで細かく記録

この部分は、他国が目指しても簡単には追いつくことはできない日本の強味

若手パワーを、いち早く我が国へ取り込みことの成功

人工知能で、人類に貢献することで同士に！

米国の人工知能チーム

人工知能分野の層の厚さ

【若手に、実力者】

- 1) 権威者だけでなく、人工知能における若手層の非常に大きなふくらみ
- 2) 研究室での研究ではなく、現場でのAI教育
⇒ Googleカーは、パロアルトの街では、すでにプリウスより多いのでは？

【スピード】

- 1) 最初のデータを渡してから、初期の人工知能のプロトタイプが2か月で稼働
- 2) スタンフォード大学が、何のためらいもなくセントケアと言う規模の大きくない会社と組む挑戦

【アカデミズムでのビジネスの高い評価】

- 当方のビジネスアイデアを、人類に貢献するものとして高く評価

6. 社会への要望

社会へ

【発明への評価】

- 1) 米国では、発明に対し、発明時(初期)に高い評価
⇒IPOは17%、83%は発明段階でGoogleなどが
買い上げ(スタートアップ)
⇒日本は、売上見込みがあって初めて評価
- 2) 発明力評価
⇒シリコンバレーでは、発明する能力に対し資本としてカウントされる
☆お金はなくとも、発明力や人財に資本としての評価をすれば、発明者は権利を担保、結果として高い意欲を持つ

【新規事業の検討体制】

- 1) 可能性よりも、現在の評価を批判的に行う傾向
⇒新規事業の検討を、既存制度下で利益を得ている方々をメンバーとして行う傾向
☆「やってみなはれ」+応援

制度へ

【イノベーションへの評価】

- 1) イノベーションによる生産性の向上を、制度上も認めること
⇒人員基準の適用の緩和
☆イノベーションやIT、ロボットなどにより生産性と質を高めても、それにより人員体制、人数を減らすことが許されていない
- 2) プロセス評価はあるが、アウトカム評価がない

【開発支援】

- 1) 介護分野の事業体は規模が小さく、一方人工知能の開発投資額は大きい
⇒開発資金の支援策
- 2) 介護分野の平均給与は高くなく、一方人工知能分野の人材は、世界的にひっ迫している
⇒アーリーステージでの給与支援策

DEMO 人工知能